

右舷灯

ジェットフォイル 御理論を駆使した常識外れの船は、米航空機メーカーの誕生に大いに驚いたことを鮮明に覚えている。

開発した全没翼型水中翼船で、時速80kmの高速で、荒れた海でも揺れずに疾走する素晴らしい船である。開発されたのは1974年。その3年後に佐渡汽船が佐渡航路に導入して大ブレイクした。

当時、大学で船の復原性の授業を担当しており、船にとつて最も大事なのが復原力と水を酸っぱくして教えていたのに、ジェットフォイルはその大きな理由は、極めて精巧な制御技術が導入され、また高速航走中に復原力をもたないという。船の安定性は、すべて水中翼のフラップをコンピューター制御することで保つ。こうすることで、波からの力も受けなくなり、ほとんど揺れない夢の船が実現した。まさに、現代制

ジェットフォイル建造再開

されたのは29隻で止まり、なんと25年間で建造されなかった。その大きな理由は、極めて精巧な制御技術が導入され、また軽い航空機用ガスタービン機関を搭載した非常に高価な船であり、さらにメンテナンス費用も高くて、経済的に成り立つ航路が限られていたことにある。こ

御理論を駆使した常識外れの船の誕生に大いに驚いたことを鮮明に覚えている。ジェットフォイルは、その後、ハワイや欧州等でも使われ、国内各地で導入された。そしてその建造ライセンスを川重が取得して、30年前から国産船が製造されるようになった。しかし、ボーイングと川重の両社で建造例の長寿である。そして川重で、ついに、ジェットフォイルの建造が再開され、その第一船は東海汽船の東京・伊豆諸島航路に来年お目見えする。船名は「ゼンアイランド結」。

このような高性能の高速船が離島の生活を守り、過疎化の抑制と観光客の増加にも大きな貢献をするに違いない。この代替補助にふるさと納税が可能なら、真っ先に利用したいものだ。